第４回

出土文化財展

瀬戸山Ⅱ遺跡

吉岡大塚古墳

今坂遺跡

瀬戸山Ⅱ遺跡

日時：平成20年6月4日（水）～6月8日（日）
午前9時から午後5時まで
※4日（水）・5日（木）は午後7時まで
※8日（日）は午後4時まで

場所：掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

2008 掛川市教育委員会 生涯教育課

山城では珍しい石組み排水溝

高天神城跡

L字状に屈曲する排水溝

1．調　査　地　掛川市上土方嶺向3136ほか
2．調査の原因　史跡整備
3．調査の面積　200㎡
4．調査の期間　平成19年12月～
5．調査の内容　　平成20年3月

前年度に引き続き、史跡整備事業として、本丸ゾーン（本丸東側の下の帯曲輪・御前曲輪・三の丸の北の帯曲輪）の調査を実施しました。

この結果、本丸東側の下にあり、石窟から南へ続く帯曲輪では、山裾に沿って石組みの排水溝が、崖側には粘土を積み上げた土塁が構築されていることがわかりました。この排水溝は、途中でL字状に屈曲して、谷側へ水を流す構造となっていました。通路には、段差が設けられた箇所がありました。本丸のすぐ下とはいえ、急峻な崖下には曲輪などが存在しない所で、なぜこのように手間ひまをかけて通路・土塁・排水溝を構築したのか不明な点が多く、今後の検証が必要になります。排水溝を屈曲させたり、段差によって障壁を設けたりして、敵の侵入を困難にしていた可能性があります。

三の丸北側及び本丸西側下の曲輪は、縄張図とほぼ同じ形状であることがわかりました。三の丸北側では、三の丸方向から帯曲輪が続き、北側で広い平場を造成して曲輪としていることがわかりました。

各地点においてわずかですが、遺物が出土しました。本丸東側下の帯曲輪から出土した遺物のほとんどは、本丸からの流れ込みと考えられます。三の丸の北の曲輪では、16世紀中葉から後半に位置づけられる、すり鉢・甕・かわらけ・天目茶碗・釘などが20点ほど出土しました。

全国的にも珍しい帆立貝形古墳

和田岡古墳群

吉岡大塚古墳

吉岡大塚古墳全景（南から）

1．調　査　地　掛川市高田1248-1ほか
2．調査の原因　史跡整備
3．調査の面積　119㎡
4．調査の期間　平成19年12月～
5．調査の内容　　平成20年3月

国史跡に指定されている和田岡古墳群の内、吉岡大塚古墳の発掘調査を実施しました。この古墳は、上から見た形が帆立貝に似ていることから帆立貝形古墳と呼ばれる、珍しい形の古墳です。造られた時期は、古墳時代中期の中ごろ（約1,550年前）と考えられています。古墳は、全長55m、後円部の直径が42mで、古墳を取り巻く溝（周溝）底

から墳頂部(後円部の頂上)まで約7.5mの高さがあります。

今回の調査は、後円部の形状等を把握するため、墳頂部の中心から南(第1)、東(第2)、北(第3)の三方向に、周溝の外側まで延びるトレンチ（溝状の試掘坑）を設定して実施しました。

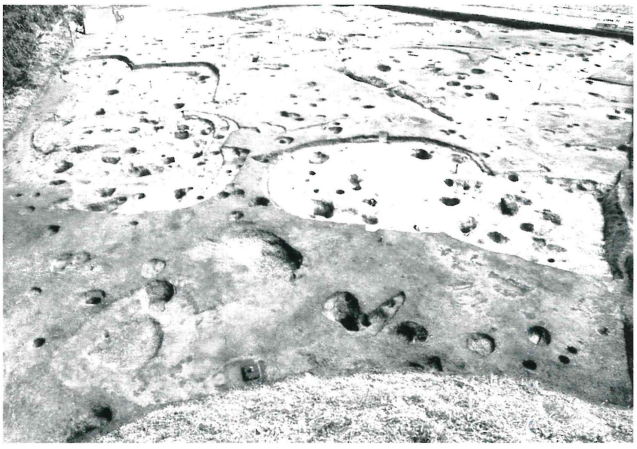
後円部の高さの2分の1からやや下に、幅1.7mのテラス(段)が存在することがわかりました。テラスの縁に直径15㎝の埴輪が据えられた状態で検出されたことから、テラスの縁に、埴輪が並んでいた可能性が高くなりました。

古墳の斜面には、見栄えを良くし、土の流出を防ぐための葺石があることがわかりました。古墳を取り巻く周溝は、上端の幅約12m、底の幅約7m、深さ約1mの底が平らな溝であることがわかりました。

テラスと墳丘の裾部分から埴輪の破片が出土しました。

埴輪の検出状況

葺石の検出状況



完掘の状況

古墳時代前期の特殊な竪穴住居跡、古墳時代中期の大型土坑墓の発見

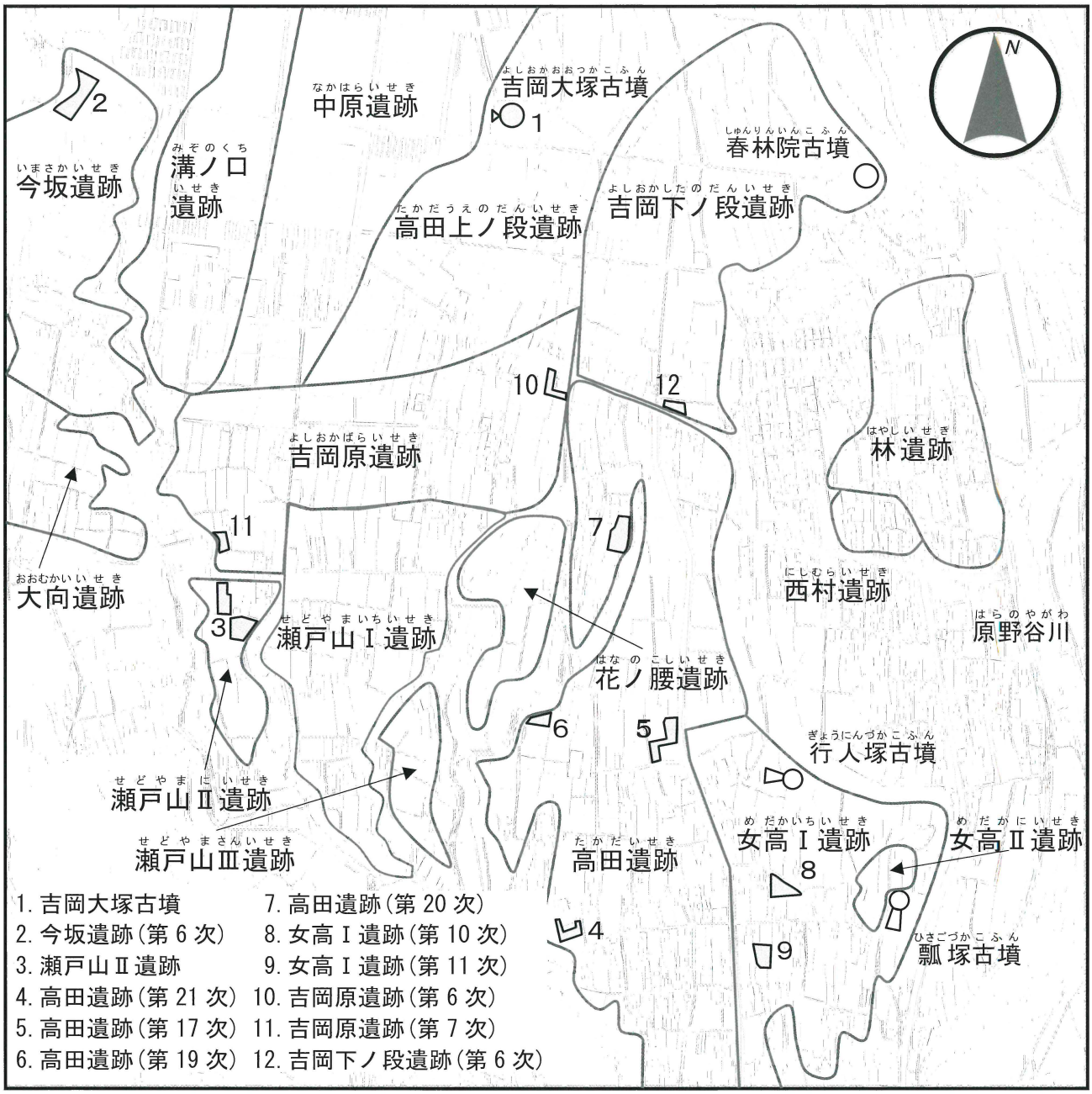
今坂遺跡(第6次)

1．調　査　地　掛川市吉岡1771ほか
2．調査の原因　茶園改植
3．調査の面積　1,500㎡
4．調査の期間　平成19年6月～11月
5．調査の内容

調査では、縄文時代後期(約3,500年前)の竪穴住居跡1軒と、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴住居跡20軒のほか、多数の土坑・小穴が発見されました。

周辺域では縄文時代の遺跡の調査例はほとんどなく、石で囲まれた炉を伴った竪穴住居跡は、貴重な発見となりました。

今回発見された古墳時代前期の竪穴住居跡の中には、当時の一般的な住居とは異なった特徴をもつものがありました。当時の一般的な住居では、調理や暖を取るための炉が住居の中央もしくはやや壁寄りに備えられているのに対し、今回発見された住居では竪



高田・吉岡地区の遺跡分布と調査地点

穴内の一隅にあり、その構造は炉とは異なりカマドに近い形態のものでした。また、物を置くためと考えられる棚状の施設を備えている住居も発見されました。

古墳時代中期の土坑墓は、長さ 4.7m、幅 2.4m、深さ 0.9mを測る大型のもので、古墳の主体部（遺骸を葬った坑）と比べても遜色のない規模で、中からは鉄剣が出土しました。周囲には、古墳が存在した形跡はなく、大型の土坑墓のみが造られたと考えられます。

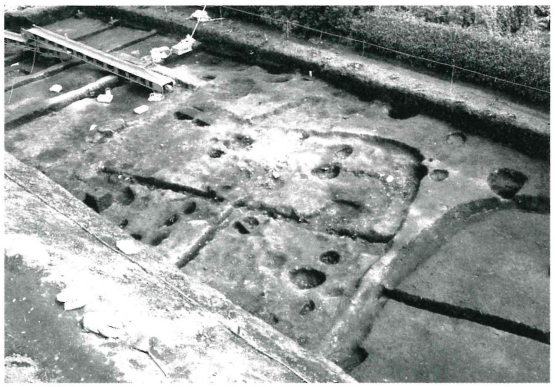
弥生時代後期から古墳時代前期におよぶ竪穴住居跡は、ほとんどが重複して発見されており、住居が密集する集落が存在したと考えられます。古墳時代の中ごろになると、集落の規模は小さくなり、大型の土坑墓が造られました。今のところ、大型の土坑墓については不明な点が多いのですが、和田岡古墳群の出現を考える上で重要な資料と言えます。

重なり合う竪穴住居跡

大型土坑墓（古墳時代中期）

段丘縁辺部に展開する集落跡

瀬戸山Ⅱ遺跡



竪穴住居跡（古墳時代前期）

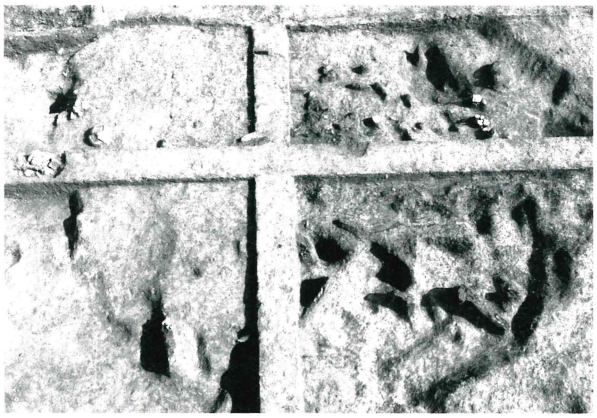
1．調　査　地　掛川市吉岡1641-2 ほか
2．調査の原因　茶園改植
3．調査の面積　1,206 ㎡
4．調査の期間　平成 19 年 8 月～12 月
5．調査の内容

調査区は、原野谷川により形成された河岸段丘の西側縁辺部に位置し、西側・南側・東側の三方を谷に囲まれています。

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）から古墳時代中期（約 1,600 年前）までの竪穴住居跡26 軒、掘立柱建物跡、多数の土坑・小穴が発見されました。竪穴住居跡は、密集し重なり合っていました。同じ場所で何回も建てられたためと考えられます。

古墳時代の竪穴住居跡からは、火事で炭になった木材や萱などが発見されました。

出土遺物は、縄文時代中期から古墳時代中期までの土器のほか、軽石製の砥石、黒曜石の塊、糸を紡ぐための土製紡錘車などがあります。



火災にあった竪穴住居跡（古墳時代前期）

土器の出土状況

弥生時代後期の布掘りの掘立柱建物跡の発見

高田遺跡（第 21 次）

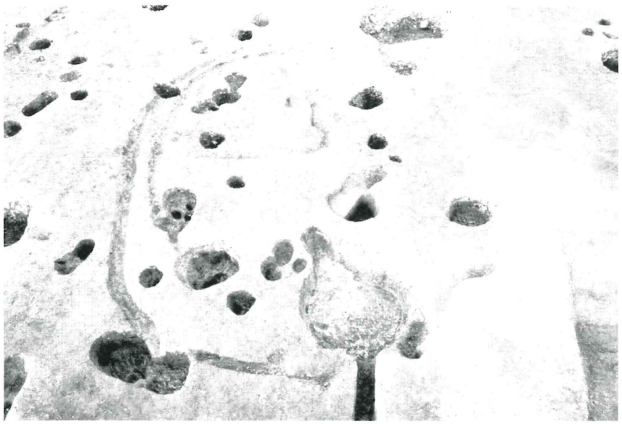
布掘りの掘立柱建物跡（弥生時代後期）

1．調　査　地　掛川市吉岡1305-2 ほか
2．調査の原因　茶園改植
3．調査の面積　525 ㎡
4．調査の期間　平成 19 年 11 月～12 月
5．調査の内容

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）から古墳時代前期（約 1,600 年前）の竪穴住居跡３軒、布掘りの掘立柱建物跡１棟、多数の土坑・小穴と、江戸時代後期の溝跡・土坑・小穴などが発見されました。

弥生時代後期の布掘りの掘立柱建物跡は、地面に溝を掘り、その中に柱を立てた建物で、吉岡・高田の段丘上でも数棟しか発見されていない非常に珍しいものです。

江戸時代後期では、溝跡、溜跡、方形の大型土坑、ゴミ穴と考えられる土坑などが発見されました。周辺域では江戸時代の集落の調査例はほとんどなく、当時の集落の様子をうかがい知ることのできる貴重な発見となりました。



竪穴住居跡（弥生時代後期）

溜跡（江戸時代後期）

以下の遺跡は、平成 18 年度に発掘調査が実施され、平成 19 年度にその内容が報告書としてまとめられました。その概要を紹介します。

高田遺跡（第 17・19・20 次）

土器の出土状況（古墳時代中期）

第 17 次調査地点は、縄文時代中期（約 4,500 年前）、弥生時代後期（約 1,800 年前）から古墳時代中期（約 1,600 年前）にわたる集落跡でした。周辺では検出例の少ない、縄文時代中期の竪穴住居跡が発見されました。弥生時代後期では、土坑墓・土器棺が発見され、この調査地点が当時の集落の端であることがわかりました。古墳時代では、検出例のない大型の竪穴住居跡が検出され、中期の住居跡から

は土器がまとまって発見されました。

第19次調査地点は、弥生時代後期から古墳時代中期（約1,600年前）にわたる集落跡で、竪穴住居跡の重複と多くの柱穴の存在から、住居が密集する集落が存在したことがわかりました。また、周辺では検出例のない古墳時代中期のゴミ穴が検出されました。

第20次調査地点からは、周辺では検出例の少ない弥生時代中期（約2,000年前）の土器が出土しました。

女高Ⅰ遺跡（第10・11次）

第10次調査地点からは、古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居跡が検出されました。

第11次調査地点は、弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代中期にわたる集落跡で、多数の遺構が検出されました。特に古墳時代前期の方形周溝墓、古墳時代中期の溝跡は、周辺でも調査例が少なく貴重な発見となりました。方形周溝墓からは、ミニチュア土器・石製模造品・ガラス玉など祭祀に関わる遺物が出土しました。

方形周溝墓の溝（古墳時代前期）

吉岡原遺跡（第6・7次）

第6次調査地点では、段丘縁辺に立地する弥生時代後期（約1,800年前）の方形周溝墓が発見されました。群集する事例が多い中で、単独で存在する事例として注目されます。

第7次調査地点は、弥生時代後期から古墳時代前期（約1,700年前）にわたる集落跡でした。周辺では検出例の少ない、布掘りの掘立柱建物跡が発見されました。また、弥生時代後期の砥石・ガラス玉も貴重な発見となりました。

吉岡下ノ段遺跡（第6次）

弥生時代後期（約1,800年前）の方形周溝墓1基と柱穴が発見されました。

開発予定地内に遺跡はありませんか？
工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在６９４遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの〝心のふるさと〟であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に県教育委員会に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった――ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会生涯教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館・支所には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認をお願いします。

掛川市教育委員会　生涯教育課 文化振興室 文化財係
電話（０５３７）２１―１１５８

明和９年(1772)５月 21 日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届出されました。掛川市教育委員会では、この日を記して市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催します。

文化財愛護シンボルマーク